

5年生の実践

- 1 主題名 思いやりの心を大切に（2－（2）思いやり・親切）
（資料名「なやみ解決コーナーで」自作）

2 主題設定の理由

（1）価値観

第5学年および第6学年の指導内容2－（2）は、「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。」となっている。この内容は、主として他の人とのかかわりに関することであり、相手の気持ちを考えながら、親切に接していくことのできる児童を育てようとするものである。

人間の社会は、お互いの協力の上に成り立っている。そしてそれらを支える力となるものが思いやりの心である。思いやりの心は、豊かな人間性を構成する要素の一つである。相手を思いやり、その立場に立って親切な行動をすることは、私たちがよりよい社会生活を送る上で大切なことと考える。

これまでの指導で児童は、「幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする」（1，2年生）、「相手のことを思いやり、進んで親切にする」（3，4年生）ことを学習してきている。次の段階としてこの時期の児童は「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする」ことを学習する。しかし、相手が困っている場に遭遇すると、なかなか実行に移せないものである。相手の立場に立っての行動がいかに大切かを考えさせることが重要である。

（2）児童観

本学級は男子15名、女子15名の30名から構成される。概して思いやりの心をもっている児童が多く、日頃の当番活動や班活動では、親切な行動が見られる。体育の単元「リレー」では、互いの信頼関係の重要性について指導してきた結果、相手のことを考えたバトンの渡し方、受け方が少しずつ実践できるようになってきた。また学級活動「5年2組がもっと好きになるようなお楽しみ会をしよう」でも、リーダー、フォロワーともに互いの気持ちを大切に受け取り、活動することができた。その結果、6月に実施された新道徳性検査でも、「親切」の項目は全国平均よりも高い数値を出すことができた。しかし、児童の多くはそのよさに気付いていない様子が見られる。

また、自分の感情を優先してしまう状況にあると、相手に対して反抗的になり思いやりに欠ける行動を取る児童がおり、その行動をとがめる者は少ない。むしろ、付和雷同し、相手の気持ちを考えずに行動する児童が増えてきた印象もある。日頃の児童の姿を見ると、特に思いやりの気持ちが少し不足している実態がある。

そんな本学級の児童であるが、9月の運動会で6年生と組み立て表現をやり遂げた。2人組の技では技能の向上はもちろん、心のもち方の指導を行ったことにより、自分の成功以上に相手の安全を優先的に考えて演技する姿が見られた。そんな経験により身に付いた心情を、この授業で深化させたい。資料中の主人公の気持ちを考えさせることにより、相手に思いやりをもって接すると、その相手は喜び、ひいてはそれが自分の喜びにもつながることをしっかり理解させたいと考える。そして、その後、3学期には「親切な行動」に焦点を当てた授業をし、道徳的態度が育成されるよう指導を行い、本校の高学年の目指す児童像「自分の生き方をよりよくしようと努力する児童」に迫りたいと考える。

（3）資料観

本資料は、学級の班活動「なやみ解決コーナー」が舞台となっている。ある児童がどちらの行動を選ぼうか悩んでいるが、二人の班員の意見が分かれる。どちらも対象児童の気持ちを考えてのことである。一方、まじめな性格の主人公は、対象児童の気持ちをおもんばかり考え続けるが、結論は出ない。結局その場での結論は出ないが、対象児童は懸命に意見を戦わせた二人だけでなく、自分のためにずっと考え続けていた主人公の気持ちも理解し、お礼を言う。発言できずに申し訳ないと、暗い気持ちでいた主人公は、その一言に

救われ、気持ちが明るくなる、そんなストーリーである。

この資料の主人公は性格がまじめで、与えられた課題についてなかなか結論を出せず、思い悩むが、終始相手の立場に立って考え続ける。この主人公の不器用ながら一所懸命な姿に触れるさせることは、思いやりの気持ちが少し不足している児童に「相手の立場に立って考える」よさに気付かせるには効果的と考えられる。また、思いやりの心はあってもなかなか行動に移せない児童に対しても、自分の内面を肯定的に捉えさせ、親切な行動への意欲化をはかるために効果的と考えられる。そして最後の場面は、仮に成果は得られなくても、相手の立場に立って物事を考えたり行動したりすることは、相手も自分も気持ちよくなる、ということに気付かせるのに役立つことであろう。児童の道徳的心情の醸成を目指す資料として活用したい。

3 指導方針

- 思いやり・親切の価値について、児童が身近な問題として考えられるように、日頃の生活体験に近い読み物資料を自作した。
- 資料前段の情報量がやや多いので、児童が内容を理解しやすくなるように、主人公のプロフィール、現在の状況などを整理して提示する。
- 主人公の場面ごとの気持ちを確認させるため、表情図を活用する。
- 相手の立場に立って考えることのよさに気付かせるため、資料前段で何も発言していなくても必死に考え続ける主人公の心の中を想像させる。
- 相手の気持ちに立って行動することが、その相手をどれだけ喜ばせるかを実感させるため、本気で考え、発言してくれたふたりだけでなく、一所懸命に考え続けた主人公もお礼を言われた理由を考えさせる。
- 思いやりの心の大切さに気付かせるため、最後の場面での主人公の笑顔の奥にある気持ちを書かせる手立てとして、吹き出しを用意する。
- 価値を自分とのかかわりで考える段階で、相手のことを真剣に考えた経験を想起させるが、具体的に思いつかない児童がいることが想定される。そこで机間指導を行い、具体的な例として適切な児童を選び、早めに発表させたり、他教科で思いやりの心を学んできた実践例などを紹介したりする。また、教室掲示もヒントとして活用する。

4 本時の学習

(1) ねらい 周りの人に思いやりの気持ちをもつよさを理解する。

(2) 準備 教師：読み物資料、ワークシート、表情図

児童：筆記用具

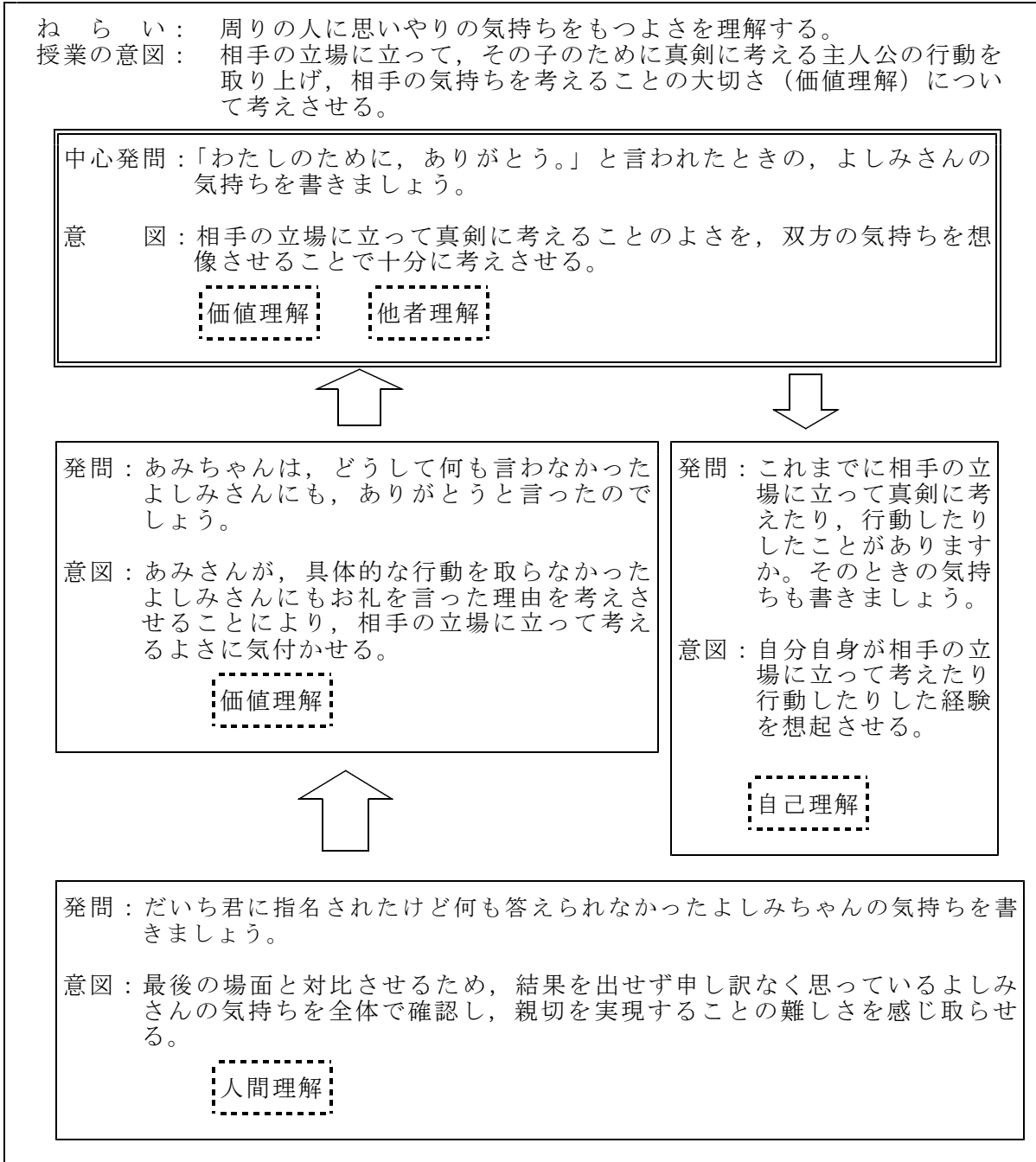
(3) 展開

学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	時間	指導上の留意点
課題をつかむ 1. これまでの友達とのやりとりの中で、自分のことを考えてもらった経験を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ある。 ・ない。 ・うれしい気持ちになった。 ・友達のことがもっと好きになった。 	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の課題である「相手の立場に立って行動すること」について、やってももらった経験を想起させることにより、そのよさを実感させる。
価値を追求す 2. 資料「なやみ解決コーナーで」を読み、主人公の心情等について考える。 (1) 主人公のプロフィールと状況を確認する。 (2) あみちゃんの出した課題を必死に考えるよしみさんの頭の中について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・まじめな性格 ・クラスで「なやみ解決コーナー」が始まった。 ・相手のことを真剣に考えるけど、どっちがいいかなかなか決められない。 ・どうしたらいいんだろう。 ・あみちゃんのためには、どっちがいいん 	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に集中して取り組めるように、読み物資料を場面を区切って提示する。 ・資料前段の情報量がやや多いため、児童が内容を理解しやすくなるように、主人公のプロフィール、現在の状況などを整理して提示する。 ・どうしたら相手のためになるか必死に考え続けるよしみさんに共感できるように、その様子が書か

<p>る</p>	<p>(3) だいち君に指名されたけど、何も答えられないよしみさんの気持ちを考える。</p>	<p>だろう。 ・相手のために真剣になっている。 ・ふたりはすごいなあ。 ・どうして自分は意見が言えないんだろう。 ・あみちゃんの役に立ってなくて、とってもつらい。 ・どうしたらあみちゃんのためになるだろう。 【人間理解】</p>	<p>れている場面を取り上げ、一所懸命さを全体で共有できるようにする。 ・主人公の心情の変化をとらえられるようにするため、発言を板書して整理するとともに、表情図も掲示する。 ・最後の場面と対比させるため、結果を出せず申し訳なく思っているよしみさんの気持ちを全体で確認する。 ・親切を実現することの難しさを感じ取らせたい。</p>
<p>る</p>	<p>(4) あみちゃんがうれしかった理由を考える。</p> <p>(5) 何も発言しなかった主人公が、お礼を言われたわけを考える。 (それでは、あみちゃんも、どうして何も言わなかったよしみさんにもありがとうと言ったのでしょうか。)</p> <p>(6) よしみさんがお礼を言われたときの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「わたしのために、ありがとう」と言われたときのよしみさんは、どんな気持ちだったでしょう。 (中心発問)</p> </div>	<p>1 7 分</p> <p>・自分のために、ふたりがしんけんにとって意見を出してくれたから。 ・たくさん発言してくれたから。 ・自分のことをしんけんにとって考えてくれたから。 ・意見は言わなかったけど、自分のことを考えてくれていた。 【価値理解】</p> <p>・うれしい。わたしのこと、わかってくれたんだ。 ・いっしょうけんめい考えてよかった。 ・よかった。これからは相手のことを考えて行動しよう。 ・うれしい。でも、今度はちゃんと発言できたらいいな。 【価値理解・他者理解】</p>	<p>1 7 分</p> <p>・資料の後半部は、ここで提示する。 ・(4)と(5)は連動しているので、前者に簡単に触れた後、(5)の発問を重視し、全体に提示する。 ・あみちゃんが、何も言っていないよしみちゃんに対してもお礼を言っている理由を考えさせることにより、相手の立場に立って考えるよさ、すばらしさ、温かさに気付かせたい。</p> <p>・最後の一文を読み、よしみ嬉しい気持ちでいることを全体で確認しておく。 ・机間巡視をし、一人一人の考えを記録しておき、全体の場での発表に生かす。 ・なかなか考えられない児童には、今後のよしみちゃんの行動について想像させる。</p>
<p>る</p>	<p>3. 相手の立場に立って考えた自分を想起する。 (これまでによしみちゃんのように相手の立場に立って真剣に考えたことはありますか。そのときのことを書きましよう。)</p>	<p>1 0 分</p> <p>・給食当番の時、友だちが重そうにしていたので、作業を手伝った。 ・一人でさびしそうにしていた友達に声を掛けた。 ・母の日のプレゼント、何をしたらお母さんがよろこぶか、考えた。</p>	<p>1 0 分</p> <p>・児童が相手に対して思いやりの心をもって接することのよさを実感できるように、発言できた児童に、そんな自分の姿をどう思うか、またそのときどんな気持ちだったか、確認しておく。</p>

<p>4. 本時を振り返り、相手の立場に立って考えることについて感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よしみさんは、あんなにしんけんに友だちのことを考えられて、えらい。 ・わたしも、もっと相手のことを考えて行動したい。 <p>【自己理解】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の行動への意識化を図るため、授業の後、児童のワークシートから具体的な行動をピックアップし、教室内に掲示する。同時に、学習の成果を学級通信で家庭に伝える。
--	--	---

5 資料分析図



6 授業記録 (T : 教師 C : 児童)

T : 「わたしのために、ありがとう。」と言われときの、よしみさんの気持ちを書きましょう。(中心発問)

- C 1 : うそ。とってもうれしい。わたし、なんにも言えなかったのに。わたしがいっしょうけんめい考えたことを分かってくれたことが、とってもうれしい。
- C 2 : わたしがいっしょうけんめい考えていたことが伝わってよかったなあ。一生けんめい考えてよかったなあ。一生けんめい相手のことを考えれば、伝わるんだなあ。
- C 3 : えっ、わたしにも！？わたし、何も言ってあげられなかったのに……。でもわたしの気持ち、ゆみちゃんに伝わってよかった。こちらこそ、ありがとう。



T : あなたは、これまでによしみさんのように相手の立場に立って真剣に考えたり、行動したことがありますか。そのときの気持ちも教えてください。

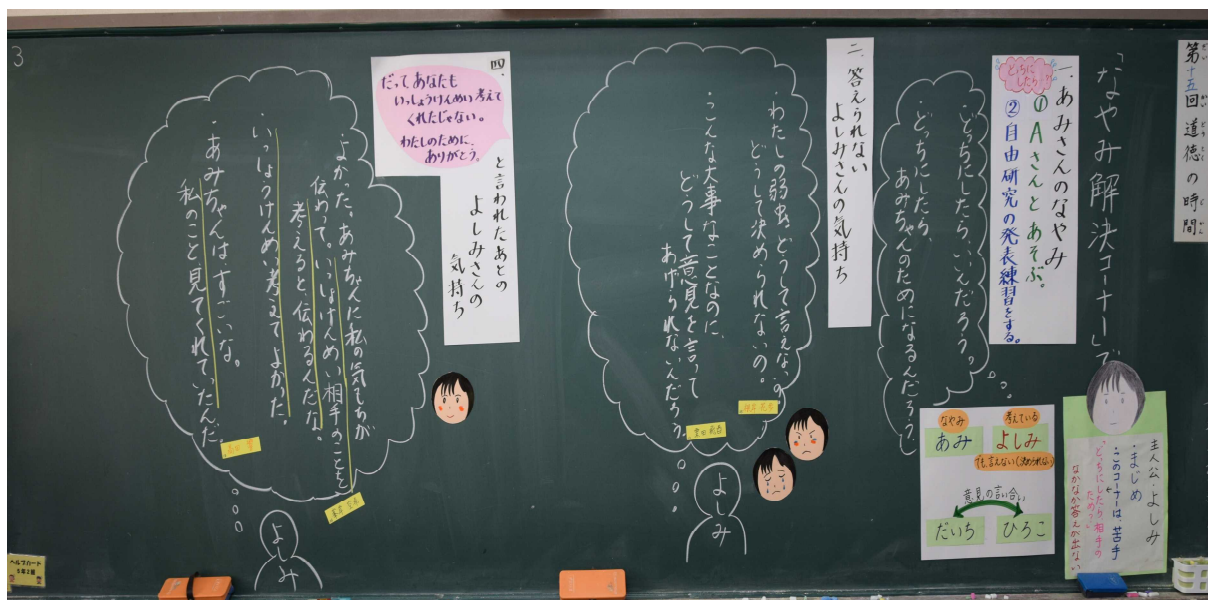
- C 4 : 友達の相談にのったとき、真剣に考えた。そのとき、自分はその人の役に立っただと思えて、うれしかった。
- C 5 : 水泳検定するとき、Y君が200mを一人で泳いでいたので、精いっぱいおうえんした。ゴールしたとき、すごくうれしかった。
- C 6 : 運動会の組み立て表現、サボテンで苦戦しているとき、ペアの子に「だいじょうぶ。次はできる」と言いたかったのになかなか言えなかった。早く言わないと練習が終わっちゃうし、かといって強い口調で言いそうになったりしないか考えるうちに、どんどんわかんなくて、どうしようと思った。
- C 7 : 友達のおみやげを選んだとき。どうしようかな。みんな何が好きかな。おそろいにしたいし……。○ちゃんはシンプルなんだけど、△ちゃんのはでなんだよなあ。あと、□ちゃんからも、おみやげもらったんだよなあ……。高すぎたらお母さんがなあ。本当にどうしよう。そう思っていた。

ワークシート「相手の立場に立って考える」ことについて、あなたの思いや考えを書きましょう。

- C 8 : わたしは、相手の立場に立って考えることは、とてもいいことだと思いました。でも、少しむずかしいとも思いました。相手の立場に立って考えることを、ふだん、さりげなくできるようになりたいです。
- C 9 : 「相手の立場に立って考えるのは、とても大切だと思った。相手のことを考えずに、ケンカしたときに思いっきりぶったり、悪口を言って泣かせたこともあったから。この授業をやって、あのとき、相手のことを考えてこんな行動をすれば、相手もこうなったんだなあと思うことがいくつもあった。

C10：相手の立場に立って考えると、相手は喜ぶし、自分も気持ちよくなると思えました。友達ががんばっているときにおうえんしたりすることは、とても大切だと思えました。これからは、相手の立場になって考え、声に出したり行動できたりしたらいいです。

7 板書



8 成果と課題 (○成果 ●課題)

【課題をつかむ】

○教室の掲示物がよかった。学校行事等をとおして心を育て、道徳の素地をつくっている担任の意図が伝わってきた。

【価値を追求する】

○自作資料は、5年生の複雑な心情を読み取るのに適していた。多少長く、やや読み取りにくい感じもしたが、短く切って提示していたので、内容がよく伝わっていた。

○板書がはっきりとしていて分かりやすかった。表情図も主人公の心情を一目で理解でき、効果的に使われていた。

●資料の中に、子どもたちの気持ちが入っていなかった。児童の実態とややかけ離れているように感じられた。

●よしみさんに「ありがとう」と言ったあみさんの気持ちにもっと光を当ててもよかった。本当に思いやりをもっていたのは、あみさんだったから。

●資料が読み取りにくく、児童の活動の中心が資料の読み取りになってしまっていた。

●児童が自分の言葉で、自分との関わりから発表できていたかが疑問。「自分だったらどうする？」という発問で自分との関わりをもたせるとよい。中心発問もどんどん発言できるように追い込んでいくことが大切。

●「思いやり」と「相手の立場に立って考える」のは、違うのではないか。

【価値を内面的に自覚する】

○ワークシートを書くことに慣れていて、自分の考えがしっかり書けている。これらを読むと、思いやりの心について、自分なりに考え、理解を深めていることが分かる。

●ワークシートに書く時間が長く、児童同士の交流の時間が作れなかった。交流を通してより高い価値観に気付かせてもよいと思った。